

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0272300773		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里なみおか		
所在地 (電話番号)	〒038-1344 青森県青森市浪岡吉野田字木戸口52-12 (電話) 0172-69-2228		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価確定日	平成22年3月23日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 5月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造二階建て 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,200 円	その他の経費(月額)	冬期3,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 270 円
	夕食	300 円	おやつ 円
または1日当たり 770 円			

### (4) 利用者の概要( 1月 28日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	83.5 歳	最低	71 歳
		最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青森市浪岡病院、ときわ会病院、赤川斉藤歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所は自然豊かな環境にある。職員は理念に基づいたサービスの提供に努めており、入居者一人ひとりの意思や要望を尊重した対応を心掛けている。毎月勉強会を実施し、サービスの質の向上に努めている。介護計画には家族の要望を反映させたり、入居者の生活歴や身体状況に合わせた計画が立てられている。日々のケアチェックもきちんと整理されており、把握しやすいようにしてある。医療機関との連携もとられており、安心して生活できるように取り組みがされている。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域交流については、出来ることから少しずつ取り組んでいる。各マニュアル等については、資料を探し、見直ししグループホームで活用できるように作りあげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の勉強会で自己評価を配布し、意義を説明している。全職員で評価し、管理者がまとめている。ホールに評価結果を掲示している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催し事前に案内文を出しているが、家族の参加が少ない。会議では、待機者状況や外部評価結果、行事の案内などを報告し、意見を伺い、サービスに活用している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月の支払の際、面会があるため状態報告をし、家族の希望や要望を引き出せるように働きかけている。緊急時は随時電話連絡をしている。意見箱を設置してるが、活用はない。また、日頃から苦情が出ないように配慮して取り組んでいる。運営に対する意見等があれば、すぐに対応する体制作りはされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との関わりは出来ることから取り組んでおり、町内会の総会や地域の夏祭りには参加している。近隣を散歩したときは、近所の方へ積極的に挨拶をし、周知や理解を得られるよう働きかけている。小学校の文化祭への参加や、小学生と年賀状のやり取りをするなど、交流を深めるために出来る事から少しずつ取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に経営者と一緒に理念を作りあげ、各ユニットごとの理念も作りあげている。パンフレットに明記し、ホールにも掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りで斉唱し、サービス提供が理念に沿うように確認し合い、実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域との関わりは出来ることから取り組んでおり、町内会の総会や地域の夏祭りに参加している。近隣を散歩したときは、近所の方へ積極的に挨拶をし、周知や理解を得られるよう働きかけている。小学校の文化祭への参加や、小学生と年賀状のやり取りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員の勉強会で自己評価を配布し、意義を説明している。全職員で評価し、管理者がまとめている。ホールに評価結果を掲示している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し事前に案内文を出しているが、家族の参加が少ない。会議では、待機者状況や外部評価結果、行事の案内などを報告し、意見を伺い、サービスに活用している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センターの職員が出席するが、市担当者が出席することはほとんどない。書類関係でわからないことがあれば、問い合わせをしアドバイスももらっている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、利用されている方はいないが、月1回の勉強会で資料を基に周知している。必要な利用者がいた場合は対応できるように取り組んでいる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年間の勉強会で虐待について学んでいる。実際の事例等を用いての勉強会も予定している。日頃から、言葉遣い等について職員間で互いに注意を払い声を掛けあっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前と入居時に良く説明し同意を得ている。その後も継続的に時間をかけて、説明している。		
10	12	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の支払の際、面会があるため状態報告をしている。緊急時は随時電話連絡をしている。面会時は、家族の希望や要望を引き出せるように働きかけている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、苦情はない。また、日頃から苦情が出ないように配慮して取り組んでいる。運営に対する意見等があれば、すぐに対応する体制作りはされている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット内や同系列ホームへの異動はあるが少なく、できるだけ異動はしない方針である。離職の際は直前に入居者へお知らせし、ダメージが最小限になるようにしている。採用者がある際は、引継ぎを行い、他スタッフもフォローするなど協力している。	○	職員の入れ替わりがある際は、家族へもきちんと報告や紹介を行うなど不安・不満のないよう、また関わりを持ちやすいようにされてはいかかが。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については案内の内容に応じて、管理者が職員に勧めて参加している。参加者は報告書をまとめ、他職員へ会議の際に発表している。内部の勉強会は毎月1～2回テーマを設けて実施している。新任者がいる際は、管理者が指導をし、外部の新任研修があれば出席している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は持たれていない。地域包括支援センター主催の勉強会(月1回)があるがほとんど出席できず、グループホーム協会の研修には参加するが交流は出来ていない。系列のグループホームとの関わりも薄い。</p>	○	<p>系列及び近隣のグループホームとの交流を少しずつ広げていってはどうか。日頃の情報収集や意見交換することで、サービスの質の向上に活用できるのではないだろうか。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にグループホームを見学してもらい説明を十分に、雰囲気を感じてもらっている。病院からの入居の際は家族に見学してもらっている。事前に本人に面接し、居宅介護支援センターからの情報を基に情報収集している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者一人ひとりの意思を汲み取り、表情を読み取るように努めている。できることを引き出すようにし、職員と一緒にやってもらうようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自発的に訴えることができない方については、家族から意向を汲み取るようにしている。職員間でも周知し、同じように関わるようにしている。</p>		
<b>2. 本人が良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時に家族から希望・意向を伺い、本人の普段の状況も考慮し計画に反映させている。担当職員が細かい意見を出し、計画作成者がプランを作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回日々のケアチェックを基に見直しをしている。状態に変化がある方についてはその都度見直している。面会時に計画の見直しについて家族に説明し、同意を得ている。</p>		
<b>3. 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院時は職員が付き添い対応している。家族の希望があれば、グループホームに宿泊も可能である。ショートステイについては需要がなく、利用はまだない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を継続できるよう支援している。通院が負担になるようであれば、協力医療機関へ変更する方もいるが、できるだけ変えない方針で支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで看取りを行ったことはないが、希望があればできる範囲で支援する体制がある。同意書も作成されており、訪問看護事業所と医療連携もとられている。重度化の対応について、勉強会も実施している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は全て事務所で管理している。入居者が間違っって他居室に入ることがあるため見守りし、声がけしている。言葉遣いについても、言い方や口調など傷つけることがないように配慮している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はあるが、個人のペースや希望に合わせて強制はしないようにしている。急な外出の希望にもできるだけ対応するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け、食器の後片付けなどを入居者と一緒に行っている。職員も入居者と一緒同じメニューの食事をしている。楽しい食事となるよう、希望があればメニューの変更も行っている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット別に曜日を変えて入浴日を設定しているため、いつでも入浴できるようにしている。入浴ができない方については、清拭や足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室の掃除や食事の準備・後片付け、畑の作業など生活歴を活用できるよう支援している。また、趣味(編み物、塗り絵、ビデオ鑑賞)などの楽しみごとを継続できるよう支援している。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事を計画している他、日常でも希望があれば外出できるように支援されている。必要時は、家族に同伴の協力を依頼し、外出できるように働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、何が拘束にあたるのか、身体に与える弊害などについて職員に周知している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。徘徊される方については一緒に付き添って歩き、見守りしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中と夜間の想定で訓練を実施している。緊急時の電話連絡についても訓練をしている。町内の消防団との連携もとられており、訓練にも参加してもらっている。今後、火災についてだけではなく、他の災害についても勉強会を設ける予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成し、系列施設の栄養士に栄養バランスについて確認してもらっている。毎食の摂取量をチェックし、必要に応じて補食も行っている。個人の嚥下や咀嚼状態に応じて、食事形態を工夫したり、水分に増粘剤を使用し提供している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防や対策についてマニュアルを作成し、新しい情報については追加したり、周知のために貼付している。日々の手洗い・うがいに努め、インフルエンザの予防接種も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は広々としており、自然の採光が取り入れられ明るい。ソファや畳が設置されており、ゆっくり過ごせるように工夫がされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使いたれた家具や小物が持ち込まれ、入居者一人ひとりの好みに飾りつけをしている。ベッドの位置も身体機能や動線に合わせて替えるなど工夫がされている。</p>		

 は、重点項目。